

平成28年度

第2回駒ヶ根市総合教育会議

議 事 録

駒ヶ根市教育委員会

平成28年度第2回駒ヶ根市総合教育会議議事日程

平成28年8月2日（火曜日）
駒ヶ根市役所本庁舎2F大会議室
午後1時30分 開会

1 あいさつ

2 協議事項

(1) 3ヵ年実施計画について

(2) その他

3 意見交換

4 その他

次回総合教育会議 開催予定：11月

内容：3ヵ年実施計画の内容と新年度予算について

出席者

市	長	杉	本	幸	治								
教	育	委	員	長	諏	訪	博						
教	育	委	員	長	職	務	代	理	小	木	曾	哲	夫
教	育	委	員	北	原	美	香						
教	育	委	員	下	島	公	平	(遅刻)					
教	育	長	小	木	曾	伸	一						

説明のため出席した事務局職員

総	務	部	長	萩	原	浩	一					
民	生	部	長	倉	田	俊	之					
教	育	次	長	小	平	操						
子	ど	も	課	長	北	澤	英	二				
保	健	セ	ン	タ	ー	所	長	中	坪	美	智	子
教	育	総	務	係	長	山	本	和	重			
学	校	教	育	係	長	久	保	田	浩	人		
教	育	総	務	係	下	島	清	志				

傍聴者

2人（うち報道関係 2人）

会議のてんまつ

午後1時30分 開会

○小平教育次長 皆さん、こんにちは。(一同「こんにちは」)

総合教育会議に御出席いただきましてありがとうございました。

下島委員さんが少し遅れるということですので、ただいまから平成28年度の第2回駒ヶ根市総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の進行を務めさせていただきます教育次長の小平と申しますが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、最初に杉本市長よりごあいさつをお願いいたします。

○杉本市長 今日は第2回目の総合教育会議ということでお世話になりますが、よろしくお願ひしたいと思います。今日、主には、3カ年の計画についてであります。これから計画を作っていきますので、それに関してご議論いただければと思っております。

全体的には、駒ヶ根市も地方創生事業の取り組みを進めてきております。その中の大きな柱の一つに、結婚、出産、子育てをしっかりと支援するということがあるわけございまして、それらを受けまして、本年度は、特に子どもたちの経済的な負担を軽減するというので、保育料等の軽減をいよいよこの秋から実施していただけると、そんなことで進めてきております。

それから、学校等施設関係につきましては、東中学校の木造校舎を来年度の改築に向けまして、今、準備等を進めさせていただいているところでございまして、また先頃は、社会体育のほうでは、駒ヶ根市で初めての人工芝の施設ができたというようなこともありまして、それぞれ進めていただいておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

また、そうした中で、子どもたちですけれども、スポーツの全国大会や北信越大会がありますが、かなり中学生が頑張らせていただいて、全国大会に出ていくので、9月に補正をしないと派遣費が間に合わないということで、うれしい悲鳴といたらいいんですかね、そんなことを思っております。

それから、十二天の森ですが、いよいよ取得ができましたので、それぞれの保育園が信州型の自然保育をと進めるということで、今、それぞれ申請を上げさせていただいておりますので、よろしくお願ひをしたいと思います。

主な点について述べさせていただきましたが、この後、懇談していただく中で、3カ年の計画の中に盛り込む事業等についてご提言等をいただければと、そんなふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○小平教育次長 続きまして諏訪委員長さんからごあいさつをお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

○諏訪教育委員長 こんにちは。(一同「こんにちは」)

今日の総合教育会議で、ずっと通すと5回目ということになります。昨年4月に始まりまして1年半が経ったことになります。

また、新教育委員会制度への移行について、もし来年10月と考えるとすると、もう、あと一年ということで、この移行期間のちょうど中間点に来ているところで、一つの節目かなあと思っております。

この間、総合教育会議で協議事項の第1である教育行政の大綱ということをして市長さんに策定をしていただきまして、第2の教育条件整備の施策については、今日もそうですけれども、3カ年実施計画、また新年度予算の協議を通して、新中学校の建設計画や保育園の整備計画、また赤穂公民館の建設計画等々を検討させていただきました。

また、第3の子どもの生命・身体の保護等に緊急の場合に講ずるべき措置については、今回、特に赤中の爆破予告事件、あれに見られるように実践的に大きく発展したと思っております。特にその点を取り上げてみますと、爆破予告を子どもの命・体に降りかかる緊急性を要する災害として位置づけていただきまして、市長の陣頭指揮のもとに、副市長以下、役場の災害緊急対策組織を動員して、実に迅速な対応をしていただき、事なきを得たことは、新教育委員会制度への移行の大きな成果であると思っております。今後とも非違行為等の教職員指導上の問題、教科指導、生徒指導上の緊急問題については、極力、教育委員会が主体となって詰めていきたいと考えておりますけれども、地震、台風などの自然災害、爆破予告や不審者の侵入、食中毒の発生などの人為的な災害については、今回同様に迅速な対応をお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

なお、今回課題となりました子どもの保護者への引き渡し方法、また緊急下校の際の給食、食事の確保等々については、教育委員会ですらに検討して参りたいと思っております。

また、当日の欠食代、残菜処理費用等についても市費で補正していただけるとのこと、大変感謝を申し上げたいと思っております。

それで、今日の会議でありますけれども、3カ年実施計画の進捗状況についての協議とのことで、教育条件整備等の施策について協議することになろうと思っておりますけれども、先ほど申しました新教育委員会制度への移行を一年後に控えて、もう一度、具体的な施策の検討を通して駒ヶ根市教育の基本理念や基本目標、とりわけ、どのような子どもたちを育むのか、教育大綱に立ち戻って協議をしたり、新しい教育委員会のあり方などについても気軽に意見交換し合えたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○小平教育次長 ありがとうございます。

それでは、お手元の次第に沿いまして会議を進めさせていただきます。

第4次総合計画に基づきまして策定されました教育大綱に沿って事業を進めているところでございますが、本日の総合教育会議におきまして、ここ3年間の事業実施計画であります3カ年実施計画で計画すべき事業などを議題としまして、協議・意見交換をさせていただきたいというものでございます。最後のほうで教育全般に渡っての意見交換の時間もとらせていただきたいと思いますので、実施計画以外の課題についてはその他のところでお願いをしたいと思います。

それでは、最初に3カ年実施計画の計画事業についてということをお願いしたいと思います。

参考までにA4の1枚の資料に3カ年実施計画の策定に当たりまして検討が必要かと思われる項目についてまとめてございます。これに限るわけではありませんが、参考としていただきまして、進めさせていただきますが、最初に議題にあります①の発達支援について、最初に話させていただきたいと思っておりますが、子ども課創設以来、この発達支援を大きな柱としまして進んできたところでございまして、現状、あるいは今後さらに推進していくためにどうしたらいいかということで、そんなところをまず入り口として御検討いただければということでござい

ます。最初に、これは、ある意味、子ども課を振り返るところにもつながるわけございまして、これらを踏まえて、議論の参考ということで教育長のほうから説明をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○小木曾教育長 最初に、発達支援の推進ということに関わって少し話をさせてください。

5歳児健診の見返し、それから子ども課設置10年の見返しということでいろいろ検討してきましたが、その一つの方向性として詰めなくてはいけない部分なのかなと思っております。発達支援を一番大切なこととして考えてきたんですけども、例えば、子ども課の中の母子保健を中心にして、妊娠・出産・産後ケア支援センターのような立場での機能が充実してきていると思います。いわゆる、駒ヶ根市版のネウボラ事業が進んできているような気がします。相談窓口としても位置づけができて、専用電話ができて、保健師、助産師、栄養士が関わって、常にその妊娠・出産・産後ケアの相談窓口としてやってきている。名前として、あるいは看板はまだ出ていないんですけども、母子保健センターとか、あるいは妊娠・出産・産後ケア支援センターという形での機能ができてきていると思うんですが、同じように、子ども課の機能として、例えば、駒ヶ根市児童発達支援センターみたいな機能がますます充実していくことが大事なのかなと思っております。また、子ども課の機能を充実するという意味で、駒ヶ根児童発達支援センターとしての役割を市民にも知ってもらわなければならないかなと思っております。具体的にどういうことかと申しますと、今までずっとやってきたことなんですけど、早期発見、早期療育ということで、子どもたちについての情報伝達をする、共有をしっかりとやっていきたい。つまり係と係の連携をもっともっと強めていきたいということでもあります。特に乳幼児期、それから幼児期、そして学童期、それから中学、高校までも通しまして、発達支援を継続的にやっていく。そういったネットワーク機能を強めていくことが大事なのかなあって思っております。例えば、学校にあります特別支援教育コーディネーターの会議をやったり、特別支援教育支援員の会議をやったりというふうなことをやっていく。じゃあ、具体的にこのほかに何が必要なんだろうとかということなんですけど、子ども課がそういう仕事をやっているわけですけども、それをアシストする形で、今居ます不登校就学支援担当指導主事の週3日の仕事を5日間にするというだけでも、十分、それが機能してくるのかなっていうふうなことを考えております。将来的には、場合によっては児童発達支援コーディネーターというものを配置するというのも大事な有効な手段かもしれませんが、とりあえず、今は、今ある指導主事の機能を強化する形で、子ども課を児童発達支援センターとして機能させることができるのではないかと、こんなふうに考えております。

以上です。

○小平教育次長 今、これまでの現状を振り返ってまとめたところの説明がありましたが、最初に諏訪委員長さんのほうから御意見等をお伺いしたいと思いますので、お願いします。

○諏訪教育委員長 今、教育長さんからお話があったように、現在、教育長さんの思っている施策の中でも最重点に位置づけて発達支援の関係を取り組んでおります。県の中でもかなり進んだ状態になっているかなと思うんですけども、やはり1人の子どもをずっと追っていくということにつけても、経年的にも子どもを高い立場からいつも見て網をかけていて、それぞれの部署に配置していくような指令を出したり、逆に網を投げて救ったりというような、そういう立場にいる方が、今どうしても必要になってきております。指導主事を配置していただい

るわけですが、不登校の関わりだけで精いっぱいという状況で、せっかくそれぞれが、うまくネットワークが組めつつあるところなので、中心になって座る人を確保したいということがあります。そういう面で、現在いる指導主事の時数をもう少し増やしていただいたり、将来に渡っては、そういうコーディネーターを設置していただくとありがたいかなあとと思います。

○**杉本市長** 確かに、今は、養護学校も含めて、ちょうど小学部から県のほうは関わるんですけども、その前の段階をみんな市町村へお任せみたいな感じになっていると私は思っているんですね。本来は、もう少し県も関わってもらったら良いんじゃないかという思いもあるので、また県のほうにもお願いしていきますけれども、今うちはお蔭さんで、私になってから指導主事さんを2人お願いしてやってもらっていますので、また、いろいろ意見を聞く中で検討していきます。

○**諏訪教育委員長** お願いいたします。

○**杉本市長** はい。本当は、県ももっと積極的になって良いと思いますけどね。もう少し。市町村が余りやるので県が楽をしているのかもしれない。本来、県に関わってもらって、連続性を持っていくべきだと思います。そう考えれば、やはり地域にそういった面倒を見るようなコーディネーター役ってというのは、当然、必要なんじゃないですかね。それと、やはり、どうしても1カ所に集めちゃっているんだけど、そうではなくて、公立の小学校とかにもっと分散させて、そういう中でまた連携させていくような、そういう仕組みをつくっていかないと私はだめだと思うんですね。より専門的知識のある方というのは、やはり小学校と連携をとるのが私は一番だと思いますので、また、そっちのほうも、お願いして行ったほうが良いんじゃないですかね。

○**小木曾教育長** 乳幼児期から幼児期にかけて一生懸命取り組んできたことを小学校へつなげるために、すごく有効なのが、駒ヶ根市がやっているような読み書き支援なんですね。それをさらにもっと大きくするために、授業そのものをユニバーサルデザイン化していこうというのが今一番大事に考えていることです。

この間、日野市の指導主事の講演会があって行ってきましたが、東京には特別支援学級は無いって言うんです。全部通常学級で子どもたちと対応しているということです。それだけ一般の教員が研修しているわけなんですよ。どういう子に対しても授業になれるように。ただ、長野県の場合は、そういう特性のある子たちは専門家に任せれば良いということで特別支援学校とか特別支援学級に送ってしまうような状況があるわけで、今、本当に先生たちの研修が大事になってきていると思うんです。そういうことについては、県もその気にはなっていると思うんですけども。

○**杉本市長** もっとやらなければだめだと思うよ。だから、私が言ったように、そのくらいの力を入れないような県ではだめだと思います。市町村におんぶにだっこでさせるようでは、本当の教育県とは言えないと思います。一番大切な、一番力を入れなきゃいけないところで、力を抜いているんじゃないかなあという感じがしていますけどね。専門的なことを教わったりしないと、それは先生たちは大変ですよ。それで、養護学校というところで集めちゃうので、そこに通う保護者の負担も大変でしょう？みんな、それぞれ大変。それで、何もしないで、そういう通学支援を市町村でしてくれとか、そうになってしまう。それよりも、やはり、生まれ育った身近なところで一緒に教育を受けるというのが、本来、原点に戻ればそういうことじゃない

ですかね。そうすれば、自然にいろいろのことがもっともっと解決してくるんじゃないですか。副学籍って、うちが褒められているようじゃあ寂しいですよ。そうじゃないですかね？私は、前々からそういうふうに考えています。いろいろの特性を持った子どもがいることを知ることが、子どもたちにとっても良いんですよ。また、地域にとっても、そういう社会にしていけないとだめなんじゃないですかね。だから、昔と違って、そういう子どもさんたちを、小学校の子どもたちが、それからずっとどういうふうに見るかという、一本筋の通った政策がないんですよ、日本には。私は、そういう思いがあるんで、今、民間の方々もお願いする中で、やはり障がいを持った皆さんやお母さんたちがずっと安心して暮らせるような、そんな仕組みを作りたいと思っているんですよ。今はみんなぶつ切りになっちゃってね。例えば、入学前までは市町村で一生懸命やって、入学しちゃうと、今度は県の指導のもとに行って、それで高校まで行って、その高校を出ちゃうと、今度は、もう全然受け入れ先が無いんですよ。そういうのじゃなくて、一つのところに行けば一生その子どもの面倒を見てもらえるような、そういう仕組みを作らないと。今、お母さんからの要望は、それが一番ですね。ぜひ、そういう仕組みを作ってもらいたいというので、今、民生部とも相談しながら、民間の人たちで見ただけのような、そんな仕組みをお願いしていくのが一番安心してもらえるのかなと、そんなことを思って、今、アンサンブルさんなども話しをしているところです。また、そういうような施設を駒ヶ根市にも造ってほしいという話も来ていますので、そこで、例えば、放課後も関わってもらおう。それから、幼稚園や養護学校から帰ってきたら、そこで見てもらう。それから、卒業したら、働く場所をそこで提供してもらおう。お歳を召したら親愛の里とか、そういうところがありますので、そういうところへつなげるような、そういう仕組みをみんなで作っていかないと。そのためには、全体を見る人が当然に必要なので、それをやるのが市が良いのか、その辺はこれから検討していくことかなあと考えています。今、みんな切れちゃっているんですよ。

○諏訪教育委員長 そうですよ。

○小平教育次長 他の委員の皆さんはいかがですか。委員長さんご意見は。

○諏訪教育委員長 今、高校を卒業してというような話も出てきたんだけど、どんなもんなんですか、閉じこもりとかニートの若い世代の状況は？

○倉田民生部長 民生部のほうでできるだけ把握しようとしているんですけども、なかなか表に出ないっていうところがあって、実態がはっきりわからない。去年から民生委員さんに情報提供していただくようお願いしているんですけども、それでもなかなか表に出なくてわからないっていうのが実態であります。少しずつ、地域の皆さんがそういう意識になって見ないと、隣組に入っていない方がいらっちゃって、隣にいてもわからないっていうことがあります。また、その辺は、学校の先生方にも、そういう子どもがいる、何かおかしい、例えば服がちよっとおかしいとかね、傷があったり、何か情報があればいただければと思っています。民生委員さんには直接福祉のほうへっていうことは言っていますけれども。

○諏訪教育委員長 中間教室等の卒業生の組織等をうまく発展させて行くというようなことも大事なことでしょね。

○小平教育次長 他によろしいですか。——それでは、ちょっと次に進めさせていただきますが、今、入り口として、この発達支援について御検討いただきました。また、全体のコーディネー

ター、あるいは連携の強化に向けたことについては、また検討させていただきたいというふうに思います。幾つかそちらのほうにご参考までに後ろのところに掲げた項目がありますが、委員さんのほうから、それぞれ何か意見交換ということで、あればお話しいただければと思います。よろしくお願いします。

○諏訪教育委員長 十二天の森のほうですね、先ほど信州型自然保育というような話で、これは良いことだなあと考えております。駒ヶ根市の目指す子どもということでは教育大綱にも載せてあるわけですが、いずれにしても、幼児期から小学校低学年にかけての間の教育が大事なかなあと考えています。体験を通すということが大事になると思うし、いずれ駒ヶ根に帰ってくる原動力にもなるんじゃないかと思えます。特に、この小さいお子さんたちの幼児教育の指針をもう少し明確にしていかなきゃいけないなど、教育委員会としても感じているところです。この十二天の森というのは一つのきっかけになろうかなあと思っています。子どもたちは、どういうときに熱中するのかなあと、保育園の子どもたちを見ていると、やはり、その自然と関わっているときであり、それから、お店屋さんごっことか、お母さんごっことか、そういう社会の関わり合うごっこ遊びをしているときであり、それから、折り紙を折ったりというような夢を追っているとき、そういうようなところで子どもたちは本当にしたり込んで力を付けて行くと思えます。そういう機会を保育の中にもう少しきちっと位置づけて、今、言った4点のような視点で、カリキュラムを組んでいくことが大事だと思います。

その中で、例えば自然との関わりという点では、もう一つ、各園の近くにですね、この十二天の森と同じように、実際はドングリを拾いに行ったりとか、それから散歩に出かけたりしている場所があるんですね、例えば経塚でいけば美女ヶ森の林だとか、そういうそれぞれの林の所有者なり関係の人たちと保育園との間で、また、市が間に入って、もう少し自由に使えるような、その園の自然の遊びの場所を、今後、確保できていくと良いなあと考えています。その足がかりとしても、この十二天の森というのは大事だと思います。

十二天の森の設置を、今年1,200万円かけてやって、トイレ等を整備していただくんですけども、特に子ども用のトイレと、それから雨が降ってきた場合や具合が悪くなった子どもがちょっと入れる場所、野外の中で、その時間だけ、パッと屋根がつけられるような、そういう施設ができると良いなと思えます。この間、教育委員でタカノを見学させていただいたんですが、その駒ヶ根の工場がその専門で、その場に合った野外の施設を考案する、それが今大事な仕事というふうに考えているというお話でしたので、今度の1,200万円の使い道にもなるかもしれませんが、野外であずまやに変わるような、自然を害さないようなものを、こういう企業と一緒に開発をしていただければありがたいと思っています。

○杉本市長 この間も現場を見てきましたけれど、いずれにしても、今年はトイレを造って、それから、野外の雨を避ける場所？今お話のあったタカノには私も行って見てきました。ペアッと広げて使えるもの。いろいろアイデア出して研究してくれと言ってありますので、いずれにしても、今後、年次的にいろいろ整備していかなくちゃいけないかなと思っています。それと、もう少し外から中が見えるようにしてやらないとね、何かあったとき困るので、地域を含めてやってもらって、あとは、南小の子どもたちから提言をいただいた、入り口の看板だとか、木の上からものを見る場所だとか、そういう子どもたちの考えるものも今年中に少し整備したいという計画を作っていますので、また、教育委員会の中でもお話していただいてご意見をいた

だきたいと思います。

○**諏訪教育委員長** よろしく申し上げます。

それから、今、言った各園が自然体験をする近くの場所というようなものをうまく確保できるようなことも……

○**杉本市長** また教育委員会でその辺を検討してみてください。

○**諏訪教育委員長** はい。お願いします。

○**小平教育次長** 十二天の森、他にありますか。よろしいですか？

○**小木曾教育委員長職務代理** 今、委員長が言ったとおりですが、十二天の森を使うということが第一で結構ですが、ちょっと遠い園もあるので、そういう活動のできる、近くの神社とかの森を使うっていうことも大事かなあという気がします。

○**小平教育次長** それでは次の議題に入らせていただきますが、意見交換ですので、それぞれ委員さんのほうから、順次、出していただければと思います。下島委員さんいかがですか。

○**下島委員** 大事な会議に、ちょっと時間を勘違いしまして大変失礼しました。申しわけありません。

保育園、幼稚園の施設整備について1、2点お願いやお伺いをしたいと思うわけですが、特に厨房の関係の更新計画の中に、スチームコンベクションという優れものがありまして、その導入についての年次計画もあるようですが、それぞれ更新の必要度に応じて、ちょっとスピードを上げていただいて計画導入をしていただきたいなあということでもあります。それから、冷房施設の未設置保育室がまだあるということで、これもまた、順次計画のようですが、これもスピードを上げて設置整備をお願いしたいなあと思うところでもあります。

また、少子化時代を迎えて、保育園、幼稚園等の統廃合等々の問題につきましても、財政的な問題もあるわけですが、将来を見極める中で、整備計画を本格的に検討をして、将来構想を打ち出していく必要があるのではないかと思うので、よろしくお伺いをしたいと思います。

○**杉本市長** 設備の更新のほうは、また予算、3カ年計画やなんかで起算してみます。

あと、保育園のほうも、今は経塚保育園の建設が完了しますので、あとは赤穂南幼稚園、美須津保育園ですかね。前にもずっと話を聞いたんですけども、残念ながら子どもさんが増えていく状況じゃないんですね。どうしても減り気味なので、そうすると、今あるそれぞれの園毎に見ると、定数までいっていないところがかなりありますので、その辺も含めて、また考えなきゃいけないのかなということで、この間、指示させていただいています。今後の児童数等を見ながらですが、今回、経塚も建て替えましたけど、定数そのものは今までと同じなので、経塚のほうにかなり他から流れる人がいるんじゃないかと思うんですよ。そんな動向もちょっと見ながら、子どもの数も見ながら、建て替えを考えて行きたいと思っています。ある一定の規模で建て替えたほうが言いかないかなと思っています。今、現実に定数でいっぱいになっていない保育園もありますからね。

○**諏訪教育委員長** 今もかなりあります。

○**杉本市長** ですので、そういうところをどういうふうに建て替えていくかということだと思うんですよ。園の統廃合ということをしなくて、建て替えだけで、ある一定のところを分けるということも必要になってくるのではないかなと思っています。新しくできたところがどういうふうに希望があるか、ちょっと見させてもらって、その後、いずれにしても年次的には建て

替えをしていくつもりでいます。最初は、統廃合とか、そんなようなことも少し検討し出したんですけども、どうも現実的に、そこまで行かなくても、建て替えだけでも済むのかなあと思ったりもしています。ただ、その代わりどこかは閉じるようになりますよね。統廃合になるのかね？

今、経塚保育園の定員は100何人？

○北澤子ども課長 120人です。

○杉本市長 120人で、今の園児数が何人？

○北澤子ども課長 今93人ですね。

○杉本市長 93人のところに定員が120人の園ができますので、そこが120人いっぱいになると、どこかが減ると思うんですよね。そういう様子見て検討します。いずれにしても、建て替えに関しては、順次、進めていくつもりです。

○諏訪教育委員長 学区に無くなるというようなことが無いようにバランスを考えていくと、今度の経塚ができたのが南のほうに近いですよね？

○杉本市長 そうやって思うと、美須津と赤穂南がどういうふうに影響が出るのかなあとというのは、その動向を見れば、大体、結論が出てくるのかなあと、今、そんなように思っています。

○諏訪教育委員長 保育園の話が出ましたので、平成29年から保育園の給食を給食財団に移すということがあります。給食センターで作るとの違い、実質的には臨時の方と2人でその給食に責任を負うということがありますから、退職された方々の後のところへ新しい方々が入って行くにしても、現状より、やはり大変な仕事にはなるし、それから責任も増えてくると思うので、少し、その、手当と言いますか、保育園の調理員さんたちへのプラスアルファを考えていかないと、財団の中でも人員配置がなかなか難しいんじゃないかと思うんですが、そのあたりはどうなんですか。

○杉本市長 それはどうなるんですか。よくわからないんですけども。

○小木曾教育長 食材調達も厨房調理等もやっているということがあるものですから、ちょっとセンターの調理より仕事増えるのかなと思いますが……

○杉本市長 それは、また財団の中で、どういう仕組みが良いか考えてもらったら良いんじゃないですか？いずれにしても、財団でみんな正規の職員になってやってもらうので、その辺は、みんなで責任を持ってやってもらえば良いんじゃないですか？今だってみんな責任を持ってやってもらっているわけですから、何も変わるところはないと思いますけど。そんなに心配しなくても大丈夫ですよ。

○諏訪教育委員長 気持ち良く移行していただくには、現在やっている仕事よりかなりオーバーワークというか、仕事量が増えるので……

○杉本市長 そうですか？そうなるんですか？

○小平教育次長 食材発注業務が増えるっていうことはあるかもしれませんが……

○杉本市長 そういふのだって統一して発注することはできるんじゃないの？方法はいろいろ考えたほうが良いよね。

○小平教育次長 そうですね。移行をスムーズにするように、その方法を考えて、その中で、順次、経験を積んでいただきながら移行することに……

- 杉本市長** そんなに心配しなくても、大丈夫ですよ。みんなしっかりした人たちですから。
- 諏訪教育委員長** そこで働いている方たちに現状をお聞きするとね、ちょっと、このままじゃ大変だっていう、気持ち良く動いていただくには考えないといけないかなと……
- 小平教育次長** また体制についても、私どもも一緒に検討させていただきたいと思いますので。
- 杉本市長** 今みんなそれぞれやっているしね、みんなしっかりした人が多いので大丈夫ですよ。それはもう、かつてと比べたら絶対良いですよ。昔は正規の職員と臨時の職員で同じ仕事をしているっていうことがあったけど、今はみんな正規の職員にしているんですから、そこは、もう責任持ってやってもらうっていいことじゃないですか。園のほうが大変だったら、今いるベテランの人たちをそういうところに配置して、経験の少ない人をセンターに持つてくるとか、それは、財団の中でしっかり考えてやってもらえばいいんじゃないですかね？そういう必要な準備をしっかりして、食材なんかも効率良くしてやれば良いと思いますけれども。今、学校のほうは、同じ栄養士さんがやってくれているんだから。保育園・幼稚園も栄養士さんが全部メニューを考えてくれているんでしょう？
- 小平教育次長** メニューは栄養士ですけどね。
- 杉本市長** だったら購入も一括にするとかできるんじゃないの？
- 諏訪教育委員長** 保育園の場合には、それこそ地産地消といいますか、地元の人たちの結びつきが非常に強いということもあるし、その数量が、突然休むお子さんたちもあったりして、それぞれかなり工夫する力っていうことがないと難しいんですよ。そういう面から見ると……
- 杉本市長** そんなに難しいのかなあ。
- 諏訪教育委員長** ぜひ、また実態を見てもらいたいと思います。
- 杉本市長** わかりました。
- 小木曾教育委員長職務代理** 私のほうからは、竜東学校給食センターの施設改修についてということで、教育委員会は大型の事業で次から次へと予算を使うような事業があるわけですが、東中学校の木造校舎については、先ほど市長さんがおっしゃられたように、とにかく命に関わることは最優先ということで決断をしていただいています。ありがたいと思いますが、それに隣接する給食センターが、やはり御存じのように古くて、どうしたら良いかというような議論が始まっております。市は、一応3つのセンターでやっていくということで、将来的にも3つでやっていくんだというような話は定例教育委員会のお聞きしておりますけれども、そうすると場所をどうするのかという問題が次に出てきますが、いろいろ検討してみたり、建設や運営に関する幾つもの要件があって、なかなか改造をして増やすとか、そこへ食数を増やすことはなかなか難しい。結局、別の方へつくるといような方向が出ております。ですから、そんなようなことを考えながら、できれば市の土地が良いんじゃないかというようなことで意見もありましたので、そうすると自ずと要件が大体揃ってきて、絞られていくんじゃないかなあってということです。それで、これから、その場所の問題を含めて、いろいろな課題を検討しながら、3カ年計画の中でどのような位置づけで進めてもらえるのか、そこら辺をお聞きしたいと思うんですけども。
- 杉本市長** いずれにしても、もう施設が古くなってきているので余り先送りできないですね。ですので、もう単純に言えば、3校分を担うところをどこかに1カ所でやるのか、それぞれに分散するのかということですよ。例えば、中学校の分をどこかで担う形にしなきゃいけない

ので、1つの案は、将来的に長い目で見てずっと残りそうだと思う学校のところにつくって、3校分を見るっていうので、今、それが一番有力なんじゃないですかね。余り先送りできないので、何とかその辺でまともれば、3カ年の中に位置づけられるのかなあとは思っておりますけれども。

○**小木曾教育委員長職務代理** ぜひ、お願いします。

○**杉本市長** はい。大分古くなって、衛生面ということもあるし、それは先送りできないので。

○**小木曾教育委員長職務代理** それから、もう一つ給食絡みで、学校給食のアレルギー対応の栄養士ということについてですけれども、アレルギー対応の児童・生徒が、今、小学校で50人、中学で25人というように、大変大勢になっております。アレルギー対応の栄養士を県にお願いしたいところなんですけど、東中にも栄養士をつけてもらったりしたことの関係で、これ以上は無理だろうというふうにお聞きしておりましたので、市で1人考えてほしいということですが、ただ、このアレルギー対応は、給食で出したものに対しては市に全責任があるので、果たしてどこまで対応していくのか、完全にやるのか、どの辺までをやっていくのかという検討も、やっぱり大事な事じゃないかと思うんですよね。それと、もう一つは、栄養士を雇うということは大変費用がかかるんですが、そこら辺をどういうふうにご考えておられるのかということをごちょっとお聞きしたいと思います。

○**杉本市長** この件は、去年もあったので、県の教育委員会のほうへ行って話をしてきました。

先ず、一つ、栄養士を加配してくれて言ったら、まだ栄養士を配置していない学校も幾つかあるということ。それから、アレルギーに完全に対応することは難しい。多分無理でしょうと言われましたね。栄養士を置いても無理。今、国・県のほうから、一定の指針が出ていますよね。だから、その指針に沿ってやるのが一番ベターじゃないかと、そんなことを言われました。栄養士を置いても完全にできるかどうかということですね。100%。それは、なかなか難しいので、ある程度のことはするけど、それ以外は保護者の皆さんに責任を負ってもらおうという体制もとっていかないと、難しいんじゃないかと専門の先生から言われました。現実的に、全責任を市長さんが負えますかと。逆に、こういうものがありますよってお知らせして保護者の皆さんに対応していただくほうが、より安全なんじゃないか。全部任せてやりますと言っても、例えば、そんな状況を全部つかめるかどうか。それよりも、万が一何か起きたときには万全の態勢をとるといふことのほうが重要じゃないですかとは言われました。いざというときの対応をしっかりとっていくっていうことですかね。それと、一番は、アレルギーのことも含めて、子どもさんの状況をそれぞれのクラスの先生が一番知っているんじゃないですかと、そうしてもらいたいという話もありました。やはりいろいろの対応の仕方があるのかなと思うので、何が一番ベターなのか考えていかないといけないし、それから、全てにその対応ができるだけの態勢がとれるのかどうかということだと思います。ですから、できる限り対応できるところはして、それ以外は、今は保護者の皆さんに献立を知らせて、保護者のほうで対応してもらっているということでしょうか？

○**北澤子ども課長** そうですね。保護者の方と面談をしまして、必要な対応をとるということでやっております。基本的には、県と国の指針に基づきまして、駒ヶ根市でもどういった対応をしていくかということをご3月～4月でまとめまして、それで、どこまで除去食をやるかとか、例えば小麦とかは調味料になりますので、そういったものは除けませんので、そうい

うときにはお弁当対応にしてもらおうとか、そういうことを保育園・幼稚園で統一してきておりますので、その中で、できる部分で対応していきたいと考えている状況であります。

○小木曾教育委員長職務代理 事務局のほうで県内の他の市町村の栄養士の配置状況だとか、そういうようなことはわかりますか？

○北澤子ども課長 県のほうに確認をしたところ、専任の栄養士を市で置いているのは佐久市1市のみであります。市費で対応している調理員でアレルギー対応しているのが、松本・安曇野・佐久市ということであります。

あと、他の市町村もそうですけれども、アレルギー対応のため県費の栄養教諭の配置を要望しているところが非常に多いということで、調査をしたところ、そういった回答がありました。今現在は、そういった状況で、上伊那の中では、まだまだそこまで行っていないで、栄養士は県費で置いていないところもあって、市町村費で対応している市町村もあります。

○杉本市長 こういうのは、本当は県等が投資的にやってもらうべきことだと思うんですね。市町村に任せるべきじゃなくて、県に専門の課があるんですから、そこには専門の栄養士さんたちがいるんだから、もっともっと中心的に皆が安心できるようなことをしてもらわないと、私はそう思いますけどね。だから、また市長会やなんかを通じて、強く、県のほうにお願いしますよ。栄養士配置ができないならできないなりに、みんなが安心できるような、対応はこうしていますということ。これ、地域によって差があるなんていうことがあってはいけないことじゃないんですかね。県で統一してやるべきだと思いますけどね。我々も、そのどういうふうにして良いかという専門的なところまで、よっぽど解っていないとできないですよ。

先生たちの教育委員会のほうでどんどん要望してってください。

○諏訪教育委員長 4月に駒ヶ根市として、ここの水準までということを決めたわけなんですけれども、その水準でやっていくにしても、対象者が増え続けているので、例えば代替食で、あと弁当にするにしても、できるところまでやるにしても、今、苦しい状態にあるということです。確かに県が対応すべきことだと思うんですけれども、現状、なかなか、その一人一人への対応ということが厳しい。駒ヶ根市とすれば、ここまでをやりたいということをはっきりさせたんですけれども、やっぱり手薄になってしまうという状況です。

今、南の給食センターあたりはどのくらいの人数がいましたかね？

○北澤子ども課長 南につきましては、昨年が42名の対象者で、今年は少し減ってしまっていて37名です。ただ、中身についてはいろいろなパターンがありますので、一概に言えないんですけれども、数字的には、そんな状況です。

○諏訪教育委員長 40前後の代替食というのは、それをその短時間の中で作っていくということは、やはり大変なことだと思うので、県に願をしていかなきゃいけないことなんだろうけれども、現実には、給食センターの中では、そういう点に大変困っているということです。

○杉本市長 ぜひ、その栄養士さんには県のほうへ生の声を伝えてもらいたいと思いますね。私も聞いていきますけど。

○諏訪教育委員長 はい。

○杉本市長 やはり、そういうのを現場から声を県に上げてもらうのが一番良いんじゃないですかね。そういう声が届かないと、なかなか進まない。

○小平教育次長 他にはいかがですか。

○北原委員 じゃあ、私のほうから社会教育の赤穂公民館の整備事業についてですけれども、何度か話題にも上がっておりまして、まず、その建物の老朽化による建て替えということである話がありまして、場所を移転してとか、文化会館併設でとか、そういういろんなお話が出てきているところで、これもまた、建物を建てる、建て替えるということになると、予算的に厳しい中で、すぐにというわけじゃないかと思うんですけれども、3カ年計画の中でどのように入って、計画が少しでも進行していくような状況があるのかということをお伺いさせていただきたいと思います。

また、赤穂公民館に関しましては、運営方法なんですけれども、やはり東伊那、中沢の公民館に比べますと対象の人口が多いもんですから、それが今までと同じように赤穂公民館で分館があってというような形でよろしいのか、以前にも少し話題になりましたが、小学校区ぐらいに赤穂公民館分館みたいな形で主事がいてというような、そんなようなことも含めまして、今後の状況をお聞かせいただければと思います。

○杉本市長 いずれにしても、今、建て替える方向で検討していますので、どういう方法が良いか、逆に提案していただきたい。財政的には、その公民館単体だと良い補助制度が無いもんですから、その補助を受けやすいものにはどんなのがあるかということで、研究しています。文科省に無いんですよ。全く。それで、経塚保育園も国土交通省の補助金ですからね。ですから、そういうふうなアイデアを考えなければならない。何たって財源的にある程度見込みが立たないといけないので、そっちのほうを研究させていますが、それらが出たところで、どういう方向が良いか、また、委員の皆さんからご意見をもらいたいと思います。そういう中で3カ年計画の中に位置づけていきたいと思っていますので、お願いします。基本的には建て替えですね。

○小平教育次長 北原委員さん、よろしいですか。

○北原委員 はい。

○小平教育次長 他はよろしいですか。他に御意見等ございましたらお願いします。また、教育全般について何かございましたらお願いします。——市長さんどうでしょうか。

○杉本市長 一番懸案のところは今まで出たようなところですかね？保育園・幼稚園についても年次的に建て替えるけれども、やはり児童数の様子を見ながら、また一定の方向性をつくっていきたいと思っています。ですので、今年中には、できれば、保育園・幼稚園の関係、それから赤穂公民館の関係、さっきの竜東給食センターの関係等が、この3カ年実施計画の中で一定の方向性が出せれば良いのかなと思って、それぞれ検討してもらおうようにお願いしているところです。大体そんなところですかね？

○小平教育次長 そうですね。主要なところは。

○杉本市長 主要なところはそうだね。あと、先ほど提案いただいた設備等の更新等についても、また年次別にできるようなことは3カ年計画の中に位置づけていきたいと思っています。

○下島委員 お願いします。

○小平教育次長 全体について何か——よろしいですか。

○諏訪教育委員長 先ほど、私、言ったように中間地点に来てはいますがけれども、教育全般について、市長さんのほうから、どうですか。

○**杉本市長** そうですね。一番に、学力向上をお願いしたいっていうのはずっとお願いしていますが、最近、テスト終わって、どういう結果だったのか、まだ発表にならないんですか。

○**小木曾教育長** 16日から18日くらいですかね……

○**杉本市長** そちら辺、また楽しみにしています。

○**諏訪教育委員長** 今日、学習指導要領が出ましてね、アクティブラーニングという新しい言葉が出てきました。本当に子どもたちが考え合って、話し合って、自分で情報を獲得していくという、そういう力が大事だっていうことを学習指導要領ではうんと言っているんですけども、結果的に、そのテストの点の公表っていうようなところに最後の興味が行ってしまうというね、そのところは非常に残念だなあと思っています。

○**杉本市長** 私も、駒ヶ根市の子どもたち、どういう子どもたちに育ててほしいかということで、十二天の森等を購入したのは、一番は、ここでしかできない教育をしたいということですよ。今、各自治体とも金銭面のことつきり、こう、やるわけですよ。でも、本来、子どもたちが育っていく上での環境というのは、そういうことじゃなくて、育つ環境だと思うんですよ。さっき言ったように、子どもたちって自然の中で遊ぶのが一番なんじゃないですかね。園舎のない保育園が良いんじゃないかということをよく私は話させてもらうんですよ。雨の降った日は園舎に入るけど、そうじゃない日は、外へ行って遊んで、その中で関わるいろいろなことによって、多分、バランスの良い体ができるんじゃないですかね？木に登ったり、それから危険なものは何が危険なのか自らが知るってということですかね？それと、人と人との関わりの中で助けなきゃいけない時とか、弱い子はみんなが面倒を見なきゃいけないとかね、そういうことが出てくるのは、やはり自然の中のほうが良いのかなと思いますし、子どもたちを見ていると、自然の中で遊ぶ子どもの時間、そういうのをうんと大事にしてやる必要があるんじゃないかって、そういうふうに思っているんですよ。そういうことをしてきて、学校に上がって行く、今度は学校の中では、そういった経験の中で、ああ、こんなことをして、そんなふうにしてああいうことが起きるのかなって疑問に思ったら、それを調べる、で、また、それに関して先生たちがちょっと助言をする、そういうことの積み重ねをしていくことが大事で、私は階段議論ってよく言っているんですけども、1歳は1歳のときの経験をする、2歳は2歳の経験をする、残念ながら、そういう経験ができていないと、どうしても、ある一定の年齢になって急にいじめられたりすると、階段に足が届かなくなって人から逃げなきゃあ居場所がなくなってしまいます。かつては子ども同士がそういうことをお互いにカバーしたんだけど、どうも最近は、子どもの時間がなくて、大人と子どもの時間が強くなってきたんですかね？というような感じがしているので、駒ヶ根市ができること、自然を生かしたことをすればね、他から見て駒ヶ根市へ行って子育てしたいなああと、そう思えるようなところになってもらえば良いのかなあと、それが学校にもつながっていければね、一番良いのかなあと、今、そんな思いがしていますので、そこができれば、自ずと学力も伸びてくると思うんですよ。自然の中から学んだことがそのまま生かされていく。そういう教育を、ぜひ駒ヶ根市はして行って、それから、あとは、ああ駒ヶ根ってすごいなと、こう思われるようなね、そういう子育てができれば良いのかなと思っていますので、よろしくお願いします。

○**諏訪教育委員長** 全く同感であります。

○**杉本市長** 学力って、多分、そういうことをして行ったら付いてくるんじゃないですかね？ただ教えられても、疑問にも思わないことを教わっても頭に入らないですよ？自然の中において、木にこう耳を当ててみたら何か音がする、何で？とかね。自分で、この草、何ていうかって調べたりするとみんな覚えますので、そういうことが重要じゃないですかね？

○**諏訪教育委員長** おとといも、教職員を集めて、そういう研修をやったんですけれどもね、なかなか若い先生方は勉強で育った人たちが多くて、集団遊びをした経験がないっていうことがあったりしてね、子どもが遊んでいる姿をじっと見ていて、ああ勉強しているなあって見る目がないんです。そこを何とか先生方にも感じていただく、これも、十二天の森とか、そういうところへ思いきっておっ放してみても、その中で子どもがどれだけ学んでいるかっていうことを感動してもらわないと変わらないんだと思います。そこがやっぱり学力をつけていく一番もとのところだろうかと、やっぱり幼児教育のあたりのところが本当に大事なところだなあというように思います。

○**杉本市長** 今年から県の教育委員からもお願いして、新規採用の教職員の配置を地元をお願いしてって言ったけど、やってくれたんですかね？

○**小木曾教育長** やっています。

○**杉本市長** それ一番大事なんですよ。今まで、新任教員で最初に全然知らないところへポンとってしまうので、地域のことわかりません、何もわかりませんということになって、そこで、ちょっとつまずいちゃう先生が多かったんで、県の教委にも強く言って、まず地元配置してくれってお願いした。

○**諏訪教育委員長** 今年からそういう傾向になっています。

○**杉本市長** ああ、それなら良かった……

○**諏訪教育委員長** ただ、逆に、どこへ行ったって、その地域で生きろっていうふうに、私たちの頃は、教員というのはそういうもんだ、田舎の山の中へ行ったらね、山の中でもって教育をやれと、それが大事じゃないかっていう。そうした意見が、また強くなってきています。

○**杉本市長** ただ、やはり人間生きていく上では、自分が育った環境、歴史、伝統、文化っていうのが一番大事なんですよ。それが人間の根底なんですよ。そうじゃないところに行って入ったとしても小さい時に経験していることとは全然違うじゃないですか。それで、先生たちが一番最初に来て、子どもと接する時に何を教えるかっていけば、自分の体験を子どもたちに教えるっていうことになればね、生まれ育ったところに行って子どもたちに接するのが一番良いんじゃないですかね？と私は思うんですよ。今まで、駒ヶ根市でも、いろいろ事件とかがあった時にしてみると、やはり知らない土地に行って孤立しちゃって、地域になじめない、また、誰も相談する人がいない、じゃあ、どこかにうっぶん晴らしをしてしまうということの前にね、しなきゃいけないこと、みんな人間ですんで、お互いがかばい合っていかなきゃいけないのかなってというのが私の思いですかね。ですので、そんなことをお願いしたい。できれば、長野県は広いので、将来的には、教育委員会も分かれても良いんじゃないかなっていう、そのくらいあるんじゃないですか。地域を生かした教育っていうことに。これから重要なんじゃないですかね？それで、なぜかっていうとね、話が、地方創生って言われていて、今、駒ヶ根市もそうなんだけど、こういうところって、大学に行った女性が帰ってきて働く場って少ないんですよ。実は、教員っていうのは女性にとって非常に魅力的な職場なんですよ。でも、残

念ながら、この地域に女性の先生が少ないので、もっともっとそういう教員の、やはり地域に関わってもらうのに非常にいい仕事だと思うので、さっき言ったように、例えば、教育委員会を今の制度でも分けられるんですよ。4つのブロックくらいに分けられますので、そのくらいで教員採用をしたり、教育委員会に携わるとすれば、さっき言った全体的なコーディネートするにも。小さい単位で全体を見られるということになると思うんですよ。また、こういう提言はしていきたいと思っていますけど。そうすると、さっき皆さんから出ているような話がかなり目が届くようになるんじゃないですか。全体的に。そういうのが、より身近になってくるんじゃないかなあと、とりわけ支援を要する子どもたちへの支援とかになると、特にそうなんじゃないですかね？

○諏訪教育委員長 本当に地域に根づくということはね、先生方にとっては一番大事なことですのでね。

○杉本市長 ぜひ、そんなことで、駒ヶ根市の教育をしていきたいと思っていますので、また、教育委員会の皆さんにも、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

あと、施設整備のほうはお金との相談なので、総務部長が全部良いつて言ってくればすぐつくりたい話なんですけどね。だめだって言われるので、年次的にやらせていただきます。

○諏訪教育委員長 いろいろの補助の手当等もさらに進めていただければありがたいと思います。

○杉本市長 そんなことで進めていきたいと思います。

3カ年計画の中で、今のお話等、詰めさせていただいて、この次、11月ですか？そのときに話をさせていただくということでもよろしいですかね？その間もいろいろ提言いただければと思いますが、よろしくお願ひします。

○諏訪教育委員長 よろしくお願ひします。

○小平教育次長 御議論いただきましてありがとうございました。

今、話がありましたように、これから3カ年の計画を策定していきますので、今日の会議の内容を検討いたしまして調整してまいりたいと思います。

次回の総合教育会議ですけれども、御協議いただきました3カ年実施計画がまとまってまいりますので、その内容の説明と、それから、新年度予算編成につきましての協議を主題といたしまして11月ごろ開催をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、以上をもちまして第2回の総合教育会議を閉じさせていただきます。

どうもありがとうございました。

午後2時27分 閉会